

Policy Topics

1980年代以降のイスタンブルの女性にみられる3つの文化的類型¹

原題：İstanbul'daki şehrin yaşam tarzının özellikleri ve değişmesi: Kadın modasına odaklanarak

The Three Cultural Types of Women in Istanbul since 1980s

監修：山中 速人

Hayato Yamanaka

報告：アイシェ・アルズ・エリティズマン
(Ayşe Arzu Ertizman, イスタンブール大学
大学院社会学研究センター)

翻訳／通訳：アスルハン・タシュ・オルチ
オール (Aslıhan Taş Oruçoglu)

はじめに～イスタンブール女性にみられる3つのタイプ

人々は、多様な意味をもつ象徴を使い、お互いを理解しようと試みる。服装、話し方、考え方、実際に生活で使用する身の回りの品々などはその物自体であると同時に、象徴としての意味を持つことが分かっている。そして、それら象徴群は、それが使われている社会の考え方、政治、そして文化的傾向を反映している。

人々が相互理解や他者認知に動員する象徴群は、話し言葉や書き言葉だけではない。人々は、言葉を発することをせずとも、振る舞い、表情、ジェスチャーや身の回りの

品々などで、伝えたいメッセージを相手に示すことができる。たとえば、座り方、挨拶の仕方、服装、表情などがそうである。

トルコ社会において、女性の日常生活で使われている身の回りの品などを見てみると、彼女たちがそれらの時代や社会の中でどのようなメッセージを伝えたかったかを知ることができる。とくに1980年以降、トルコでの女性たちの外見や服装においてみれば、それらの象徴群には明らかな違いが見られた。

この相違は、彼女たちの政治的、そして文化的傾向が明白に反映されている。

トルコの社会では、歴史、社会文化的にみると、女性は、実態としておおむね3つのタイプに分けられる。

「西洋指向」タイプの女性たち

これらのうち、最初のタイプは、トルコ共和国の成立とともに見られるようになった「西洋指向」タイプの女性たちである。このタイプの女性は、概して高学歴で、良い仕事につくことができた。服装、化粧などはいわゆる「ヨーロッパ」の女性に似ており、態度や身のこなし方は、都市出身者のものか、あるいは都会生活に順応しているものであるといえる。

これらのタイプに属する女性たちは、社会経済的に低いレベルの女性たちの地位向上をめざし、教育や雇用支援を目的として多様な社会運動や市民的活動を設立した。女性の地位向上のために設立されたこの種の社会運動を代表するものに「現代生活サポート協会」がある。この協会は、特に若

¹ この報告は、2012年度から2014年度にかけて科学研究費補助金を得て実施された「可視化する地域社会の宗教／エスニック文化の比較映像分析」の研究活動の一部として、2015年3月3日にイスタンブール市内のラディソンホテル会議室において開催された研究会議で、報告されたものの要旨である。会議における通訳ならびに報告要旨の翻訳は、アスルハン・オルチオール氏によるものである。なお、本誌での報告記事は、研究代表者の山中速人が監修した。

い女性たちに教育の機会を提供し、仕事を見つけるなど、女性の経済的地位の向上をめざすさまざまなキャンペーンを催した。ヨーロッパをモデルとし、全ての生活様式を西洋化することで女性の地位向上を図ろうとするのがこのタイプの女性たちの指向上的特徴であるといえる。

ただ、一部上流階層の女性たちの中には、過剰にヨーロッパ指向を強めるセレブたちもあり、これらの女性たちは、トルコ社会で許容されている「西洋指向」タイプの女性一般とは異なる、まれな存在とみなされる傾向がある。



写真1 西洋指向タイプの女性の一例

「フェミニスト」タイプの女性たち

「西洋指向」タイプと同様に、高学歴で、かつプロフェッショナルとして働いている女性たちには、全世界的に旋風を巻き起こしたフェミニズムに影響された「フェミニスト」タイプの女性たちがいる。この女性たちは、イデオロギーやライフスタイルにおいて、「西洋モデル」タイプの女性たちとは違った価値観を持っている。



写真2 フェミニストタイプの女性の一例

たとえば、服装についてみれば、モダン、シンプル、エスニックでオーセンティック（伝統的）なスタイルを好み、短い髪、そして概して化粧をしないということで自分たちを表現する傾向を持っている。

「フェミニスト」タイプの女性たちが積極的に取り組んでいる社会運動には、たとえば、ドメスティック・ヴァイオレンス(DV)の被害者に対する支援活動などがみられる。これらDV被害者の支援活動の中で「紫の屋根のシェルター」という活動は、非常に有名である。この活動がもっとも重要な課題として取り組んでいるのは、配偶者からDVを受ける女性に一時避難場所としてシェルターを提供する活動である。

「イスラーム指向」タイプの女性たち

上述の2つのタイプの女性たちのほかに、トルコの社会ではもう一つ別のタイプの女性たちがいる。それは、「イスラーム指向」タイプの女性たちのグループである。このタイプの女性たちは、1980年以降、とくに注目を集めるようになった。このタイプの女性たちの多くは、地方出身者であり、教育歴が相対的に低い女たちである。多くの場合、家庭の中にいて主婦として生活するこのタイプの女性たちは、イスラームの戒律や慣習に基づいたライフスタイルを採り、

また服装をしている。バシュオルトウス(スカーフ)やチャルシャフ(黒衣)は、この女性たちの社会的、政治的シンボルとして使われている服装である。



写真3 イスラーム指向タイプの女性の一例

この第3のタイプの中には、大学などの高等教育の場で着用を制限されてきたスカーフをかぶる権利や、また、公的な職務に携わる場合に着用を禁じられてきたスカーフをかぶって働く権利を確立するため、積極的に闘うグループも登場してきた。そして、その運動は、大きな成果を上げるようになってきている。今日においては、スカーフを着用して、学長、市長、サッカー審判などの職務に従事する高学歴の女性たちが次々と登場している。また、これらの女性たち中で、さらに経済的にも恵まれている一部のセレブな女性たちの中には、保守的なムスリム男性の立場から見れば、派手すぎる服装や化粧を好む女性たちも登場している。

まとめ

結論的にいえば、このように、1980年以降のトルコ、とりわけイスタンブールの社会には3つの女性タイプを認めることができる。

彼女たちは、それぞれ自分たちが使っている特徴的な表象やライフスタイルをとおして、自分たちの政治的社会的地位を明ら

かにしているといえる。それらは、ヨーロッパをモデルとする近代的で世俗的な西洋風の女性たち、セクシュアリティを含むあらゆる種類の自由を擁護するフェミニストの女性たち、そして髪を隠すトゥルバンやチャルシャフを自分たちの表象として採用するムスリムの女性たちに類型化することが可能である。